

令和7年度病虫害発生予報第9号の発表について

このことについて、次のとおり発表したのを送付します。

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量
カンキツ	カイガラムシ類 (ナシマルカイガラムシ、ヤノネカイガラムシ等)	並
	ミカンハダニ	並
モモ	カイガラムシ類 (クワシロカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ等)	並
カキ	フジコナカイガラムシ	並
	カキノヘタムシガ	やや少
ブロッコリー	黒腐病	やや少
	花蕾腐敗病	やや少
	べと病	やや少
	菌核病	やや少
レタス	灰色かび病	やや少
	菌核病	やや少
	腐敗病	やや少
	斑点細菌病	やや少
	モザイク病	並
イチゴ	うどんこ病	並
	アブラムシ類	並
	コナジラミ類	並
	ハダニ類	並
野菜、花きの 共通害虫	ハスモンヨトウ	並
	コナガ	やや少
	タバコガ類 (主にオオタバコガ)	並

**太文字の病虫害：**向こう1か月の間、発生状況に特に注意を要する病虫害を示す。

\*予報根拠中の記号

- (+) : 発生量を多くする要因
- (-) : 発生量を少なくする要因
- (±) : 発生量が平年並になる要因

# 令和7年度 病害虫発生予報 第9号（12月）

## A. 果樹の病害虫

### －カンキツ－

#### 1. カイガラムシ類（ナシマルカイガラムシ、ヤノネカイガラムシ等）

予 想 発生地域： 県内全域  
発生量： 並

根 拠 秋期（9～11月）のナシマルカイガラムシの発生はやや多かった（＋）、ヤノネカイガラムシの発生は平年と同様に認められなかった（±）。

- 対 策 (1) 越冬期の密度を下げるため、冬期防除（寄生密度の高い枝の切除やワラ、ブラシなどでのすり落とし、マシン油乳剤の散布）を行う。  
(2) マシン油乳剤の散布は晴天の続く風のない日を選び、散布むらのないように丁寧に行う。なお、樹勢が弱い樹では散布を避ける。

#### 2. ミカンハダニ

予 想 発生地域： 県内全域  
発生量： 並

根 拠 (1) 一般圃場での11月下旬の発生量は平年並であった。（±）  
(2) 12月の気象は気温がほぼ平年並か低く（－）、降水量が少ない（＋）予報である。

- 対 策 (1) 越冬期の密度を下げるため、冬期にマシン油乳剤の散布を行う。  
(2) マシン油乳剤の散布は晴天の続く風のない日を選び、散布むらのないように丁寧に行う。なお、樹勢が弱い樹では散布を避ける。

### －モ モー

#### 1. カイガラムシ類（クワシロカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ等）

予 想 発生地域： 県内全域  
発生量： 並

根 拠 一般圃場での秋期（9～10月）の枝での発生量は平年並であった。（±）

- 対 策 (1) 越冬期の密度を下げるため、冬期防除（寄生密度の高い枝の切除やワラ、ブラシなどでのカイガラムシのすり落とし、マシン油乳剤の散布）を行う。  
(2) マシン油乳剤の散布は晴天の続く風のない日を選び、散布むらのないように丁寧に行う。なお、樹勢が弱い樹では散布を避ける。

### －カ キー

#### 1. フジコナカイガラムシ

予 想 発生地域： 県内全域  
発生量： 並

根 拠 (1) 一般圃場での秋期（9～11月）の枝での発生は認められなかった。（－）  
(2) 一般圃場での秋期（9～11月）の果実での発生量は平年並であった。（±）

- 対 策 (1) 越冬期の密度を下げるため、冬期防除（寄生密度の高い枝の切除やワラ、ブラシなどでのカイガラムシのすり落とし、マシン油乳剤の散布）と1月から2月に粗皮削りを実施する。  
(2) マシン油乳剤の散布は晴天の続く風のない日を選び、散布むらのないように丁寧に行う。

## 2. カキノヘタムシガ

- 予 想 発生地域： 県内全域  
発生量： やや少
- 根 拠 一般圃場での秋期(9～11月)の発生は認められなかった。(一)
- 対 策 越冬期の密度を下げるため、1月から2月に粗皮削りを実施する。

## B. 野菜、花きの病害虫

### —ブロッコリー—

#### 1. 黒腐病

- 予 想 発生地域： 県内全域  
発生量： やや少
- 根 拠 (1) 11月下旬の年内どりで発生は認められず(一)、年明けどりで平年と同様に認められなかった(±)。  
(2) 12月の気象は降水量が少ない予報である。(一)
- 対 策 (1) 薬剤防除は予防的に7～10日間隔で行う。曇雨天が続くような場合に発病を認めたら適宜防除する。  
(2) すでに発生している圃場ではオキシリニック酸やカスガマイシンを含む薬剤を散布する。  
(3) 強風を伴う降雨や降霜により感染が助長されるので、早めに薬剤防除を実施する。

#### 2. 花蕾腐敗病

- 予 想 発生地域： 県内全域  
発生量： やや少
- 根 拠 (1) 11月下旬の年内どりで発生は平年と同様に認められなかった。(±)  
(2) 12月の気象は降水量が少ない予報である。(一)
- 対 策 (1) 薬剤防除は予防的に実施する。  
(2) 強風を伴う降雨や降霜により感染が助長されるので、早めに薬剤防除を実施する。

#### 3. ベと病

- 予 想 発生地域： 県内全域  
発生量： やや少
- 根 拠 (1) 11月下旬の年内どりで、年明けどりとともに発生は認められなかった。(一)  
(2) 12月の気象は降水量が少ない予報である。(一)
- 対 策 (1) 圃場の排水を良くするとともに、窒素過多にならないよう肥培管理する。  
(2) 薬剤防除は予防的に実施し、初期感染を防ぐ。  
(3) 耐性菌の発生回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

#### 4. 菌核病

- 予 想 発生地域： 県内全域  
発生量： やや少
- 根 拠 (1) 11月下旬の年内どりで、年明けどりとともに発生は認められなかった。(一)  
(2) 12月の気象は降水量が少ない予報である。(一)
- 対 策 (1) 発病株は早期に発見し、抜き取って圃場外に持ち出すなど適正に処分し、直ちに防除を行う。  
(2) 圃場の排水を良くする。

－レタス－

1. 灰色かび病

予 想 発生地域： 県内全域

発生量： やや少

- 根 拠 (1) 11月下旬の年内どりでの発生は平年と同様に認められなかった。(±)  
(2) 12月の気象は降水量が少ない予報である。(－)

- 対 策 (1) 発病株は早期に発見し、抜き取って圃場外に持ち出すなど適正に処分し、直ちに防除を行う。  
(2) 圃場の排水を良くするとともに、トンネル内部が過湿にならないように換気に留意する。  
(3) 薬剤散布は株元を中心に、丁寧に行う。  
(4) 苗床からの持ち込みも多いので、苗床での薬剤防除を実施する。  
(5) 耐性菌の発生回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

2. 菌核病

予 想 発生地域： 県内全域

発生量： やや少

- 根 拠 (1) 11月下旬の年内どりでの発生は認められなかった。(－)  
(2) 12月の気象は降水量が少ない予報である。(－)

- 対 策 (1) 発病株は早期に発見し、抜き取って圃場外に持ち出すなど適正に処分し、直ちに防除を行う。  
(2) 圃場の排水を良くするとともに、トンネル内部が過湿にならないように換気に留意する。  
(3) 灰色かび病防除に準じて対策を行う。  
(4) 発生の多い圃場では夏季に水田化する。

3. 腐敗病

予 想 発生地域： 県内全域

発生量： やや少

- 根 拠 (1) 11月下旬の年内どりでの発生は平年と同様に認められなかった。(±)  
(2) 12月の気象は気温が平年並か低く(+)、降水量が少ない(－)予報である。

- 対 策 (1) 育苗は風当りの弱いところで行い、できるだけ傷をつけないように管理するとともに、軟弱徒長にならないよう注意する。  
(2) 圃場の排水を良くするとともに、トンネル内部が過湿にならないように換気に留意する。  
(3) ベタがけ被覆しているところでは、降雨が続くと多発するおそれがあるので注意する。  
(4) 強風を伴う降雨や降霜により感染が助長されるので、早めに薬剤防除を実施する。

4. 斑点細菌病

予 想 発生地域： 県内全域

発生量： やや少

- 根 拠 (1) 11月下旬の年内どりでの発生は平年と同様に認められなかった。(±)  
(2) 12月の気象は降水量が少ない予報である。(－)

- 対 策 (1) 育苗は風当りの弱いところで行い、できるだけ傷をつけないように管理するとともに、軟弱徒長にならないよう注意する。  
(2) 圃場の排水を良くするとともに、トンネル内部が過湿にならないように換

気に留意する。

- (3) ベタがけ被覆しているところでは、降雨が続くと多発するおそれがあるので注意する。
- (4) 強風を伴う降雨や降霜により感染が助長されるので、早めに薬剤防除を実施する。

#### 5. モザイク病（えそ輪紋症状を含む）

予 想 発生地域： 県内全域  
発生量： 並

- 根 拠 (1) 11月下旬の年内どりの発生量はやや少なかった。（－）  
(2) 11月下旬のアブラムシ類の発生量は多かった。（＋）  
(3) 綾歌郡綾川町の黄色水盤での11月のアブラムシ類の誘殺数は平年並であった。（±）

- 対 策 (1) 発病株は早期に抜き取り適正に処分する。  
(2) 育苗期から生育初期にアブラムシ類を対象に薬剤を散布または灌注処理する。

### －イチゴ（施設本圃）－

#### 1. うどんこ病

予 想 発生地域： 県内全域  
発生量： 並

根 拠 11月下旬の発生量は平年並であった。（±）

- 対 策 (1) 薬剤防除は予防的に実施し、初期感染を防ぎ、発病を認めたら、発生初期から5～7日間隔で薬剤防除を行う。  
(2) 茎葉が繁茂していると薬剤が十分に到達しにくい場合があるので、葉かぎを行い丁寧に散布する。  
(3) 耐性菌の発生回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

#### 2. アブラムシ類

予 想 発生地域： 県内全域  
発生量： 並

根 拠 (1) 11月下旬の発生量は平年並であった。（±）  
(2) 綾歌郡綾川町の黄色水盤での11月の誘殺数は平年並であった。（±）

- 対 策 (1) 圃場内及び圃場周辺の除草に努める。  
(2) 茎葉が繁茂していると薬剤が十分に到達しにくい場合があるので、葉かぎを行い丁寧に散布する。  
(3) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

#### 3. コナジラミ類

予 想 発生地域： 県内全域  
発生量： 並

根 拠 11月下旬の発生量は平年並であった。（±）

- 対 策 (1) 圃場内及び圃場周辺の除草に努める。  
(2) 圃場内に黄色粘着シートを設置し発生状況を把握し、発生初期から薬剤防除を行う。  
(3) 多発すると防除が困難になるので、気門封鎖剤などの蜜蜂への影響が小さい薬剤を用いて低密度時から防除する。  
(4) 一部の薬剤に対して抵抗性の発達が認められるので、作用性の異なる薬剤で防除する。

#### 4. ハダニ類

予 想 発生地域： 県内全域  
発生量： 並

根 拠 11月下旬の発生量は平年並であった。(±)

- 対 策 (1) 人による持ち込みを回避するため、発生圃場に入った着衣のまま未発生圃場に立ち入らない。  
(2) 圃場内及び圃場周辺の除草に努める。  
(3) 発生が局所的な場合には、気門封鎖剤のスポット散布を行う。  
(4) 茎葉が繁茂していると薬剤が十分に到達しにくい場合があるので、葉かぎを行い丁寧に散布する。  
(5) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

#### ー野菜、花きの共通害虫ー

##### 1. ハスモンヨトウ

予 想 発生地域： 県内全域  
発生量： 並

- 根 拠 (1) 11月下旬の発生はキャベツ、レタスでは平年と同様に認められず(±)、年内どりブロッコリーではやや少なく(－)、年明けどりブロッコリーでは認められなかった(－)。  
(2) フェロモントラップでの11月の誘殺数は平年並であった。(±)  
(3) 12月の気象は気温が平年並か低く(－)、降水量が少ない(＋)予報である。

- 対 策 (1) 圃場周辺の雑草は増殖源となるため、発生前からの除草に努める。  
(2) 若齢幼虫は集団で食害するため、被害葉は表皮だけを残して白色になっているので、本圃の果菜類等ではこれらを発見したら摘葉するとともに薬剤防除を行う。  
(3) 施設の出入口やサイド換気口等の開口部に防虫ネット(4mm目合以下)を張り、侵入を防止する。  
(4) 中老齢幼虫には薬剤の効果が劣るので、体長1cm以下の若齢幼虫期に薬剤防除を行う。  
(5) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

##### 2. コナガ

予 想 発生地域： 県内全域  
発生量： やや少

- 根 拠 (1) 11月下旬の年内どりブロッコリーでの発生量は平年並(±)、年明けどりブロッコリーでは認められず(－)、キャベツでは平年と同様に認められなかった(±)。  
(2) 綾歌郡綾川町のフェロモントラップでの11月の誘殺数はやや少なかった。(－)  
(3) 12月の気象は気温が平年並か低く(－)、降水量が少ない(＋)予報である。

- 対 策 (1) 苗床は防虫ネット(2mm目合以下)で被覆し、成虫の侵入防止対策を講じる。  
(2) 定植時に灌注処理や粒剤施用するとともに発生初期から薬剤防除を行う。  
(3) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

##### 3. タバコガ類(主にオオタバコガ)

予 想 発生地域： 県内全域  
発生量： 並

- 根 拠 (1) 11月下旬の発生は年内どりレタスでは平年と同様に認められず(±)、年内どりブロッコリーでは認められず(-)、年明けどりブロッコリーではやや多かった(+)  
(2) 綾歌郡綾川町のフェロモントラップでのオオタバコガの11月の誘殺数はやや少なかった(-)  
(3) 12月の気象は気温が平年並か低く(-)、降水量が少ない(+) 予報である。
- 対 策 (1) 施設の出入口やサイド換気口等の開口部に防虫ネットを張り、侵入を防止する。  
(2) 圃場内及び圃場周辺の除草に努める。  
(3) 花蕾や成長点を食害するので被害が見えたら直ちに薬剤防除を行う。  
(4) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

・住宅地等に接した地域及び広範囲に防除する場合は、散布する前に付近住民などに周知するとともに、飛散しにくい農薬を使用するようにしましょう。  
・農薬散布は、無風又は風が弱いときに行うなど、近隣に影響が少ない天候の日や時間帯を選び、風向き、ノズルの向き等に注意して飛散防止を心がけましょう。

農薬はラベルをよく読んで使用しましょう

病害虫防除所インターネットホームページ

URL: <https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichuboj/index.html>

